

令和3年度第2回曾於保健医療圏地域医療構想調整会議 開催結果

日 時：令和3年11月29日（月）18:00～18:54

場 所：曾於市大隅農産加工センター

出席者：曾於保健医療圏地域医療構想調整会議委員16人（うち代理出席3人）

傍聴者等：12人（委員随行者・関係者を含む）、事務局5人

1 議事内容

(1) 協議事項

- ① 曾於医師会立病院に係る具体的対応方針の変更について
- ② 令和3年度地域医療介護総合確保基金事業補助金（病床機能再編支援事業）に係る事業計画について
- ③ 医療機関ごとの具体的対応方針のとりまとめ結果及び今後の協議の進め方について

2 協議結果

(1) 曾於医師会立病院の具体的対応方針の変更について

- ・既に合意済みの具体的対応方針では、病床数については、急性期162床・休棟34床（新型コロナ収束後に廃止）とする計画であったが、急性期137床（令和5年3月末に急性期162床を25床削減）・休棟34床（新型コロナ収束後に廃止）とする計画に変更。
- ・既に合意済みの具体的対応方針では、役割については、がん、救急医療、災害医療、へき地医療とする計画であったが、在宅医療を加え、5つとする計画に変更。

【結果】

具体的対応方針の変更について合意された。

(2) 令和3年度地域医療介護総合確保基金事業補助金（病床機能再編支援事業）に係る事業計画について

【曾於医師会立病院の説明及び委員の質問に対する回答等】

- ・病床数については、今夏の新型コロナ第5波において、一般病床における院内感染対策として個室管理やベッド間隔の確保が必要とされたこと、今後、人口減少や在宅医療推進による入院患者数の減少が見込まれること等を踏まえ、現時点の稼働病床数137床とした。
- ・令和3年10月の曾於医師会立有明病院との統合後、スタッフが集約されたが、有明病院に在籍していた看護師のなかには、高齢化のため、慢性期病床での勤務は可能でも急性期病床での勤務が困難な者もあり、当初の予定どおり看護師の確保につながらなかったことも病床を削減することに至った要因の一つである。
- ・役割については、敷地内に訪問看護ステーションを11月1日に設置し、訪問診療体制を整えたところであり、将来的に在宅医療の拠点病院を目指すこととしているため、これまでの、がん、救急医療、災害医療、へき地医療に加えて、在宅医療を追加したところ。
- ・第5波では、休棟病床にて曾於圏域の新型コロナ感染症患者を積極的に受け入れ、曾於圏域の感染症対応の一翼を担った。
- ・現在、地域医療支援病院として承認を受けているが、病床数以外の要件は満たしており、これまで担ってきた機能には支障がないと考える。

【地域医療構想調整会議としての意見】

前回（令和3年7月14日）合意済みの「曾於医師会立病院及び曾於医師会立有明病院を統合し機能強化を図る、この目的のために、有明病院を廃止しスタッフを曾於医師会立病院に集約すること」及び今回の変更計画「急性期病床を137床（令和5年3月末に急性期162床を25床削減）とすること」は、地域医療構想の実現に資すると考えられる。

(3) 医療機関ごとの具体的対応方針のとりまとめ結果及び今後の協議の進め方について

【結果】

事務局案により医療機関の具体的対応方針の協議を進めていくことについて了承された。